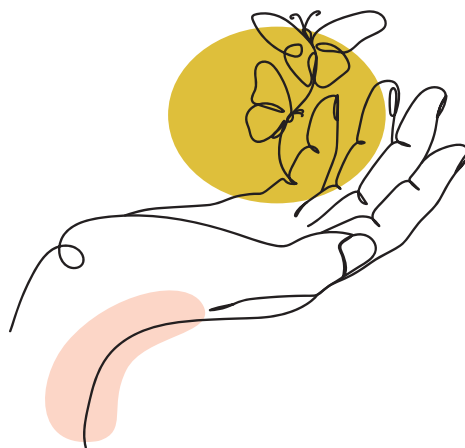


園芸療法の歴史

園芸療法は1950年代から、アメリカでは戦争帰還兵の心のケアとして、ヨーロッパでは障がい者の社会復帰・参加の一環として発展してきました。日本では1990年初め、療育・福祉・治療の一つとして園芸療法が紹介されました。

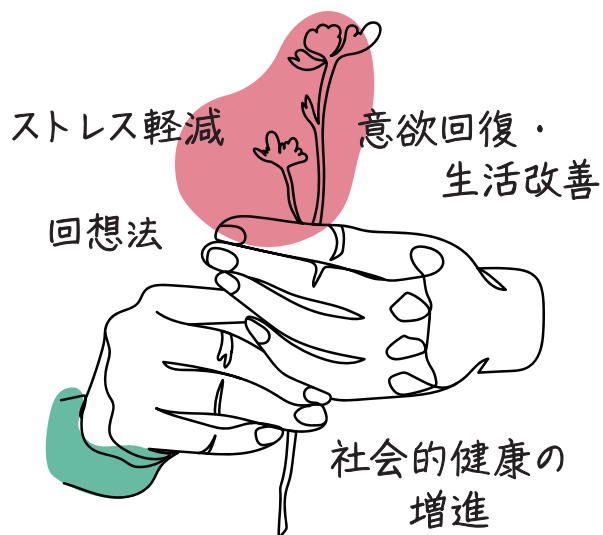


園芸療法の対象と効果

園芸作業の主役は植物ですが、園芸療法は植物を育てる人が主役です。植物の種類は選びません。



園芸療法の対象者は、子どもから成人・高齢者まで、疾患や障がいを問いません。すべての人の充実した生活を応援します。



植物の心地よい刺激からのストレス軽減、育てることによる意欲回復や適度な運動が生活改善につながります。土や植物に触れるなじみのある作業は、認知症の人の昔の記憶や季節感を呼び覚ますきっかけにも。また、植物を介した活動は他者との共感を得やすく、社会的健康の増進も期待できます。